

第 6 回 家 庭 W G 資 料

1. 消費者教育推進法及び消費者教育の体系イメージマップ
2. 系統性・体系性の整理について
3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第 4 回)結果概要

2026年4月17日

公益財団法人 消費者教育支援センター 鈴木 基代

1. 消費者教育推進法及び消費者教育の体系イメージマップ

消費者教育の推進に関する法律

目的（第1条）

- 消費者教育の総合的・一体的な推進
- 国民の消費生活の安定・向上に寄与

定義（第2条）

消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育及びこれに準ずる啓発活動

（消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を含む）

1. 消費者教育推進法及び消費者教育の体系イメージマップ

変化が激しい社会で必要な「生きる力」



「自立した消費者」に向けた取組が重要

- 合理的意思決定ができ、被害に遭わない消費者
- 社会の一員として、よりよい市場とよりよい社会の発展のために積極的関与する消費者の育成（消費者市民社会の形成に参画）

（出典）「消費者教育の推進に関する基本的な方針（基本方針）」概要
（平成25年6月閣議決定、平成30年3月変更、令和5年3月変更）

消費者教育の体系イメージマップ

						成人期			Ver.1.0
		幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	特に若者	成人一般	特に高齢者	
重点領域	各期の特徴	様々な気づきの体験を通じて、家族や身の回りの物事に関心をもち、それを取り入れる時期	主体的な行動、社会や環境への興味を通して、消費者としての素地の形成が望まれる時期	行動の範囲が広がり、権利と責任を理解し、トラブル解決方法の理解が望まれる時期	生涯を見通した生活の管理や計画の重要性、社会的責任を理解し、主体的な判断が望まれる時期	生活において自立を進め、消費生活のスタイルや価値観を確立し自らの行動を始める時期	精神的、経済的に自立し、消費者市民社会の構築に、様々な人々と協働し取り組む時期	周囲の支援を受けつつも人生での豊富な経験や知識を消費者市民社会構築に活かす時期	
	消費者市民社会の構築	消費がもつ影響力の理解	おつかいや買い物に関心を持つ	消費をめぐる物と金銭の流れを考えよう	消費者の行動が環境や経済に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済や社会に与える影響を考えよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考える習慣を身に付けよう	生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響に配慮して行動しよう	消費者の行動が環境、経済、社会に与える影響に配慮することの大切さを伝え合おう
		持続可能な消費の実践	身の回りのものを大切にしよう	自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫しよう	消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を実践しよう	持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを探そう	持続可能な社会を目指したライフスタイルを実践しよう	持続可能な社会に役立つライフスタイルについて伝え合おう
		消費者の参画・協働	協力することの大切さを知ろう	身近な消費者問題に目を向けよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考えよう	身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう	消費者問題その他の社会課題の解決や、公正な社会の形成に向けた行動の場を広げよう	地域や職場で協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくろう	支え合いながら協働して消費者問題その他の社会課題を解決し、公正な社会をつくろう
商品等の安全	商品安全の理解と危険を回避する能力	くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づこう	危険を回避し、物を安全に使う手がかりを知ろう	危険を回避し、物を安全に使う手段を知り、使おう	安全で危険の少ないくらしと消費社会を目指すことの大切さを理解しよう	安全で危険の少ないくらし方をする習慣を付けよう	安全で危険の少ないくらしと消費社会をつくろう	安全で危険の少ないくらしの大切さを伝え合おう	
	トラブル対応能力	困ったことがあったら身近な人に伝えよう	困ったことがあったら身近な人に相談しよう	販売方法の特徴を知り、トラブル解決の法律や制度、相談機関を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関の利用法を知ろう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用する習慣を付けよう	トラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しやすい社会をつくろう	支え合いながらトラブル解決の法律や制度、相談機関を利用しよう	
生活の管理と契約	選択し、契約することへの理解と考える態度	約束やきまりを守ろう	物の選び方、買い方を考え適切に購入しよう 約束やきまりの大切さを知り、考えよう	商品を適切に選択するとともに、契約とそのルールを知り、よりよい契約の仕方を考えよう	適切な意思決定に基づいて行動しよう 契約とそのルールの活用について理解しよう	契約の内容・ルールを理解し、よく確認して契約する習慣を付けよう	契約とそのルールを理解し、くらしに活かそう	契約トラブルに遭遇しない暮らしの知恵を伝え合おう	
	生活を設計・管理する能力	欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することをおぼえよう	物や金銭の大切さに気づき、計画的な使い方を考えよう お小遣いを考えて使おう	消費に関する生活管理の技能を活用しよう 買い物や貯金を計画的にしよう	主体的に生活設計を立ててみよう 生涯を見通した生活経済の管理や計画を考えよう	生涯を見通した計画的なくらしを目指して、生活設計・管理を実践しよう	経済社会の変化に対応し、生涯を見通した計画的なくらしをしよう	生活環境の変化に対応し、支え合いながら生活を管理しよう	
情報とメディア	情報の収集・処理・発信能力	身の回りのさまざまな情報に気づこう	消費に関する情報の集め方や活用の仕方を知ろう	消費生活に関する情報の収集と発信の技能を身に付けよう	情報と情報技術の適切な利用法や、国内だけでなく国際社会との関係を考えよう	情報と情報技術を適切に利用する習慣を身に付けよう	情報と情報技術を適切に利用するくらしをしよう	支え合いながら情報と情報技術を適切に利用しよう	
	情報社会のルールや情報モラルの理解	自分や家族を大切にしよう	自分や知人の個人情報を守るなど、情報モラルを知ろう	著作権や発信した情報への責任を知ろう	望ましい情報社会のあり方や、情報モラル、セキュリティについて考えよう	情報社会のルールや情報モラルを守る習慣を付けよう	トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくろう	支え合いながら、トラブルが少なく、情報モラルが守られる情報社会をつくろう	
	消費生活情報に対する批判的思考力	身の回りの情報から「なぜ」「どうして」を考えよう	消費生活情報の目的や特徴、選択の大切さを知ろう	消費生活情報の評価、選択の方法について学び、意思決定の大切さを知ろう	消費生活情報を評価、選択の方法について学び、社会との関連を理解しよう	消費生活情報を主体的に吟味する習慣を付けよう	消費生活情報を主体的に評価して行動しよう	支え合いながら消費生活情報を上手に取り入れよう	

※本イメージマップで示す内容は、学校、家庭、地域における学習内容について体系的に組み立て、理解を進めやすいように整理したものであり、学習指導要領との対応関係を示すものではありません。

2. 系統性・体系性の整理について

B 生活経営・消費生活（仮称）の内容について

- 学校段階ごとの学習内容を体系的に整理し、消費者教育体系マップの重点領域「生活の管理と契約」に該当する内容としてはどうか
 - ・ (1) 「家庭生活と仕事」(小)、「家庭生活と生活資源」(中)、「生涯の生活設計」(高) と (2) 「家庭生活と消費」(小、中)、「生活と消費」(高) の接続が重要。
小→中→高で「生活の管理」「契約」「消費行動の自立」を段階的に深める構造とする。
生活の変化（デジタル化、契約の多様化）を踏まえた見直しとする。
- (3) 「家庭生活と環境」については、消費者教育体系マップの重点領域「消費者市民社会の構築」に該当する内容としてはどうか
 - ・ SDGs、環境配慮、社会的消費の視点を段階的に育成する
- ◆ 消費者教育体系マップの「情報とメディア」については、デジタル化が生活のあらゆる場面に浸透し（キャッシュレス決済、EC、SNS広告、AI生成情報など）、消費行動に直結しているため、従来以上に学習内容を充実させる必要がある。
- ◆ 「商品等の安全」については、消費領域での扱いが十分でないため、消費の領域で新たに「商品等の安全」を明確に位置づけるか、食生活、衣生活、住生活の各分野の中で確実に扱い、事故防止、リスク管理、適切な商品選択につながる学びを位置づける。

2. 系統性・体系性の整理について

見直しイメージ案について①

生活設計関係

- * 中学校においては、小学校「家庭生活と仕事」と高等学校の「生涯の生活設計」をつなぐ学習内容を設ける方向で整理してはどうか。
 - 中学生は将来のキャリアや自立についても考え始める時期であるため、生活設計の基礎的な内容を入れてはどうか。自分の将来像や働き方、生活の組み立て方を考える土台をつくるイメージ。

- * 高等学校においては、社会保障や奨学金などの社会制度について、その活用の在り方についても学習する方向で整理してはどうか。
 - 生活設計では、長期的な経済計画を立てる視点が重要である。そのため、社会保障制度でどこまで補償されるのか、どのような場合に保険が必要なのか、奨学金が将来の経済生活にどのような影響を与えるのか、といった点を理解することが不可欠である。とくに奨学金は高校生にとって身近であり、卒業後の生活に大きくかかわるため、学習内容として扱う意義が大きい。
ただし、家庭科は「生活の場面での具体的な選択・行動」を扱う教科であるため、制度そのものの構造や仕組みの詳細については家庭科以外の教科等で扱う方法も考えられる。

2. 系統性・体系性の整理について

見直しイメージ案について②

消費生活・金融経済教育関係

- * 学校段階をまたいで一部重複する事項について、児童生徒の発達段階に応じて内容を整理してはどうか。一方で、社会変動に応じた内容とするための見直しを図る方向で整理してはどうか。
- 重複する内容の中には、発達段階に応じて繰り返し学ぶ必要なものもあると考えられるため、単純に削除するのではなく、慎重に見直す必要がある。一方で、社会の変化にあわせて内容を更新しつつ、時代が変わっても消費者にとって不可欠な「普遍的な知識」を確実に身につけられるようにすることも重要。

3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

目的

全国の高校生の消費生活と生活設計に関する実態を明らかにするとともに、学習指導要領を踏まえた学習指導及び教材開発等の一助となることを目的とする。

※ 本調査は2012年、2016年、2021年にも実施

実施方法

全国の高等学校1年生、2年生を対象として、二段無作為抽出法によりインターネットによるアンケート調査（Web調査法）を実施。

調査時期は2025年7月1日～9月30日、回収数は3,034。

実施主体

(公財)消費者教育支援センター

(公財)生命保険文化センター

3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

調査内容

高校生自身のこと	興味があること、考え方や傾向、家族との会話、 <u>18歳成年に対する意識</u>
お金に関すること	お小遣、アルバイト、貯金の有無、お金の使い道、 <u>管理方法</u>
消費に関すること	参考にする情報、支払い方法、 <u>エシカル消費に関する考え方や傾向</u>
インターネットやSNSの利用	考え方や傾向、インターネットでの購入経験、消費者トラブルの有無や内容
将来について	卒業後の進路、就きたい職業、結婚と子ども、思い描くことができる将来
これまでの学習状況	消費生活や生活設計（ライフプラン）の学習経験、学習項目
契約と生活リスクに関する知識	

3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

18歳成年について 不安や期待が入り混じる回答に

- ・ 「プレッシャーを感じる」と回答した割合が男女ともに40%前後と最多(前回調査と比べて15ポイント以上増加)
- ・ 次いで、「なんとなく面倒を感じる」が30%台半ば
- ・ 「大人の仲間入りができてうれしい」は全体の20%台半ば(前回調査から10ポイント以上増加)

18歳で成年になることについて、あなたはどのように思いますか？(複数選択可)

	男子	女子
プレッシャーを感じる	36.5% (+17.8)	40.9% (+16.4)
なんとなく面倒を感じる	33.2% (+13.8)	34.5% (+8.7)
消費者被害にあうかもしれないと不安を感じる	23.7% (▲1.6)	30.1% (▲2.7)
法律や制度について詳しく知ろうと思う	27.2% (+8.2)	24.4% (+3.1)
大人の仲間入りができてうれしい	24.2% (+11.4)	24.0% (+14.4)
社会の一員として期待されていると思う	9.6% (+4.4)	5.6% (▲0.1)
特に何も思わない	21.2% (▲17.5)	18.4% (▲11.1)

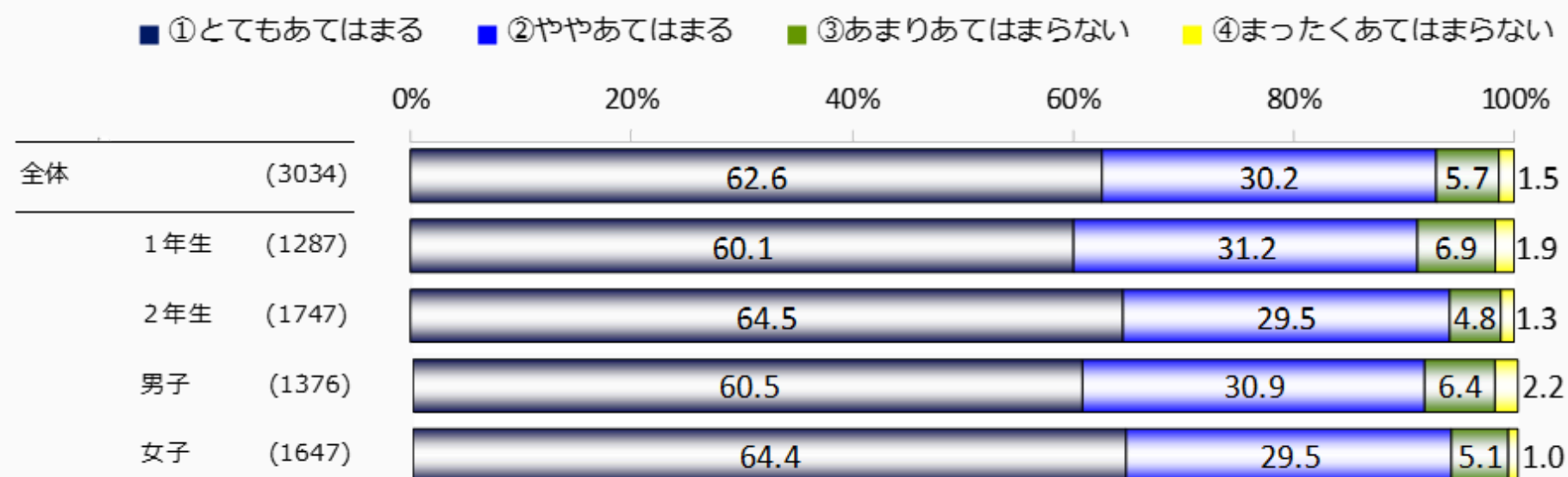
3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

お金に対する考え方① 「何をするにもお金が大切だと思う」が全体で90%台半ば

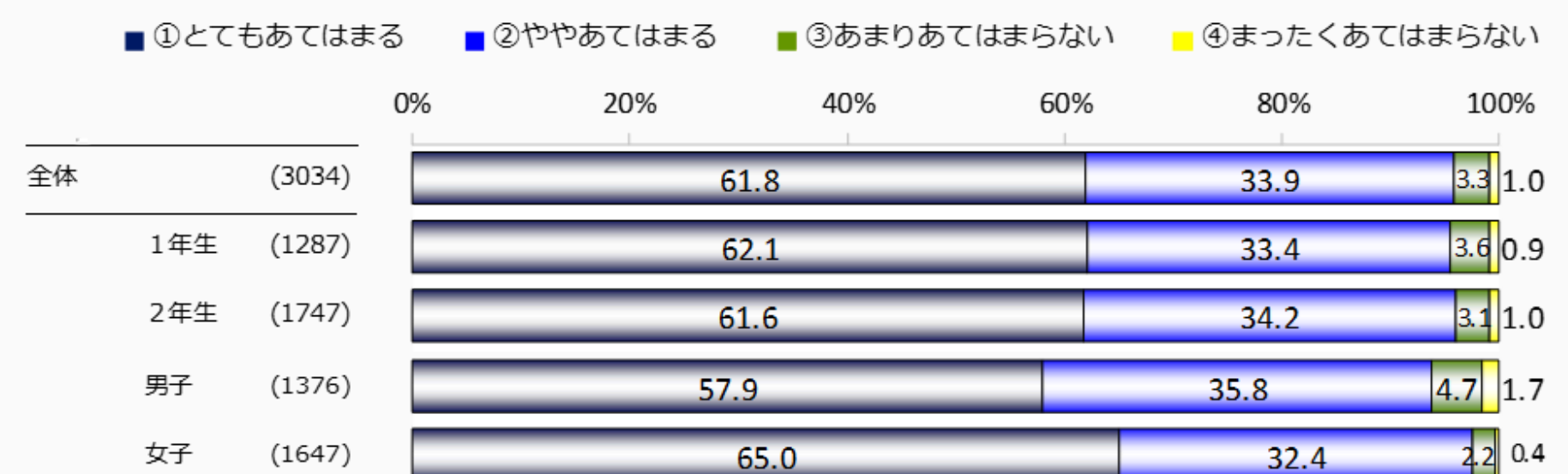
- 全体の90%強が「何をするにもお金が大切だと思う」、
全体の90%台半ばが「お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う」と回答

結果概要 (抜粋)

何をするにもお金が大切だと思う(全体・学年別・性別)



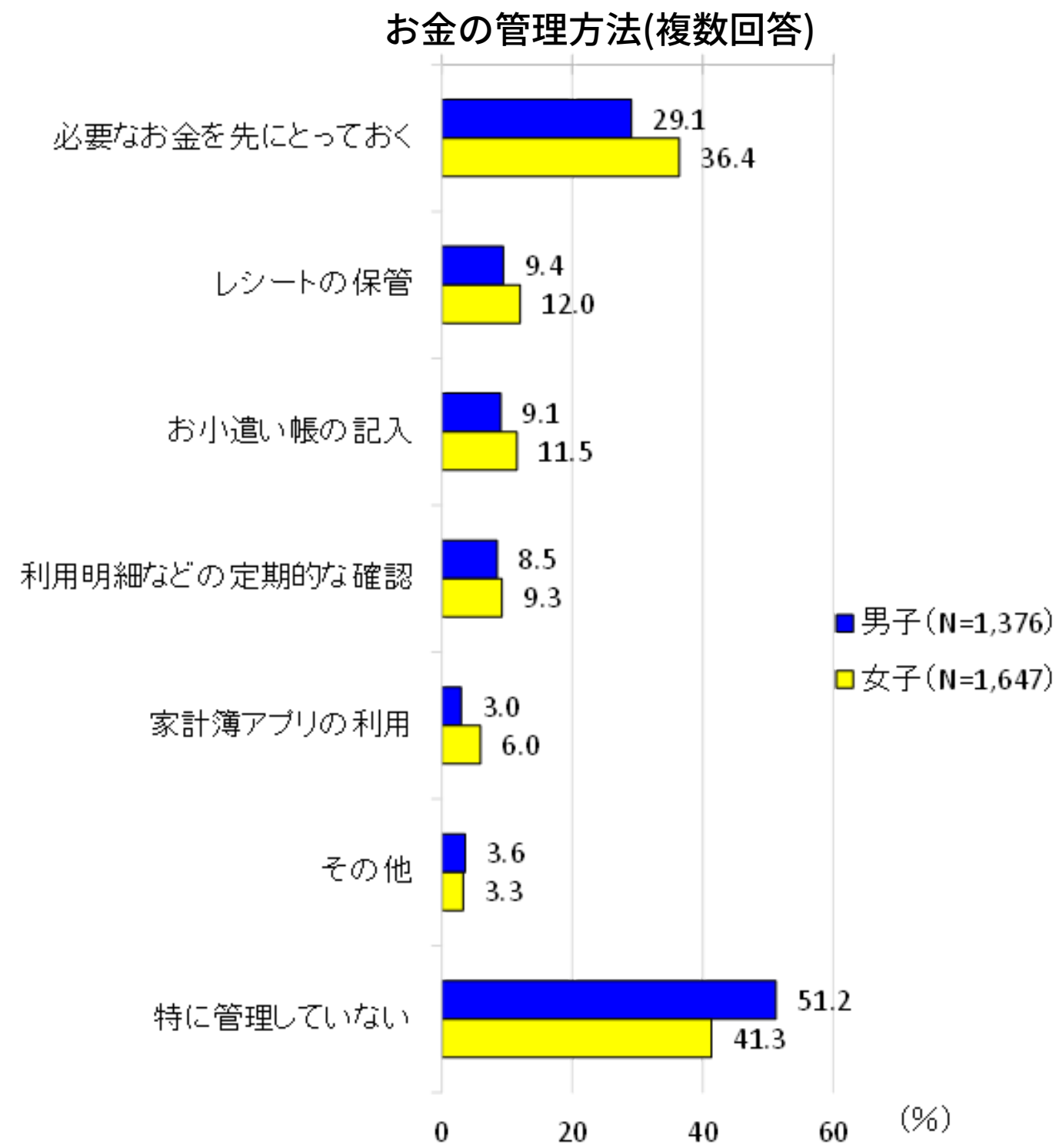
お金は働いてコツコツ貯めるものだと思う(全体・学年別・性別)



3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

お金に対する考え方②

お金の管理方法については、
「特に管理はしていない」が全体の40%台半ばと最多

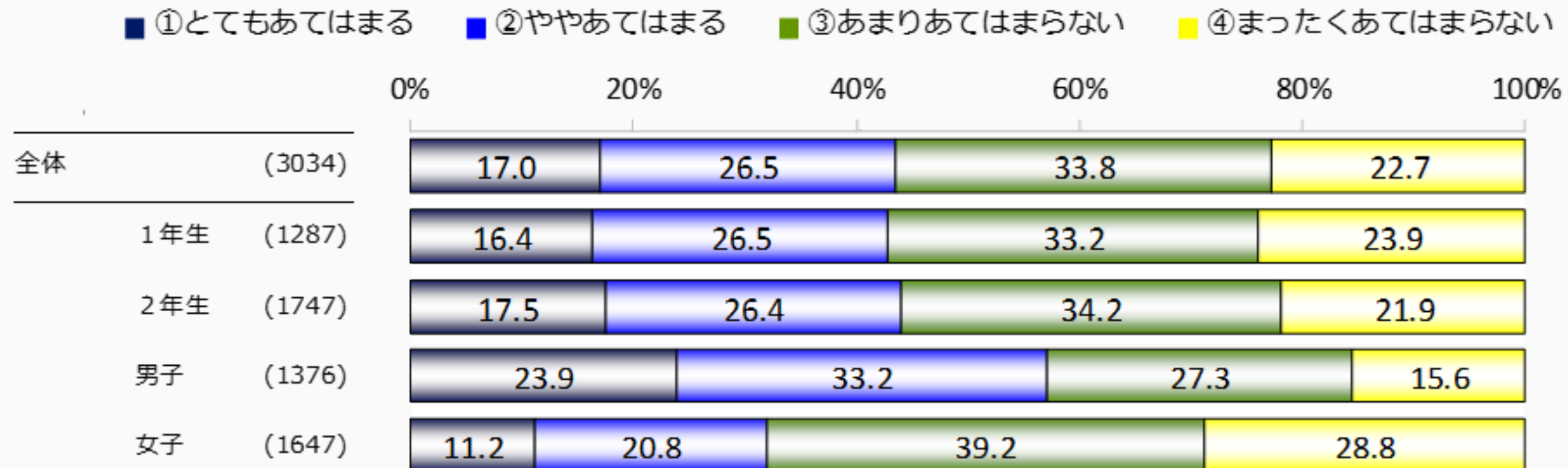


3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

お金に対する考え方③ 資産形成への関心に男女差 日常的な家計管理の意識が十分とはいえず

- 「投資や資産運用などでお金を増やしたいと思う」と全体の40%台半ばが回答。
- 女子では30%強にとどまるが、男子は60%弱と25ポイントの差が見られた。

投資や資産運用などをするこで、お金を増やしたいと思う(全体・学年別・性別)

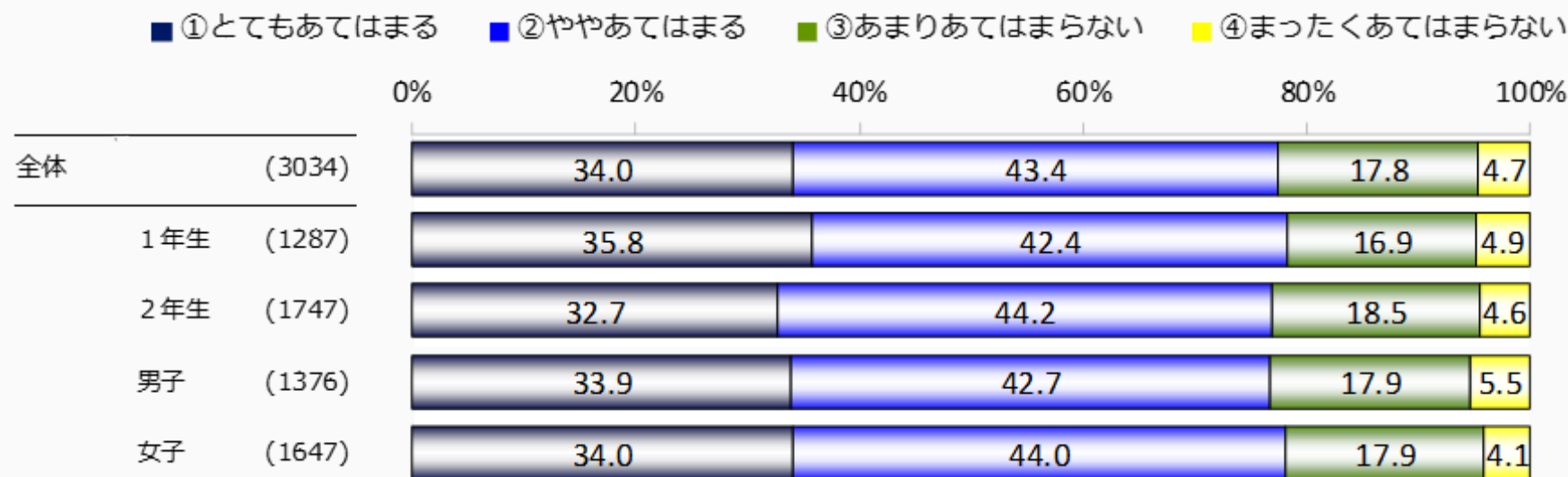


3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

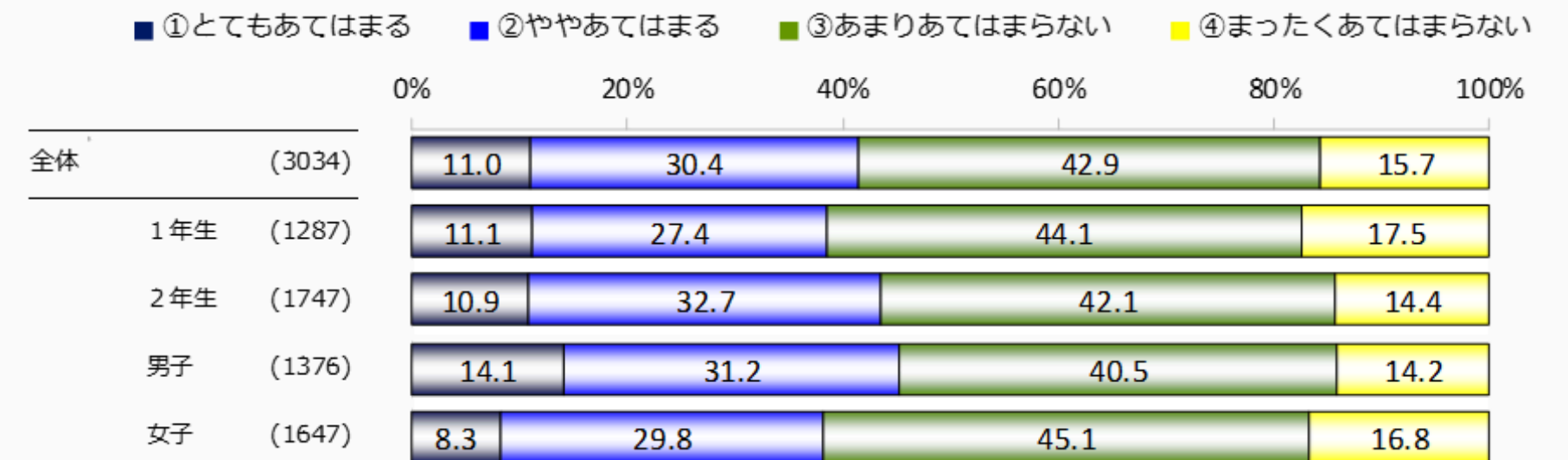
エシカル消費に関する考え方や傾向①

- 「気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う」と全体の80%弱が回答しているものの、「高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う」と全体の40%強が回答

気候変動は高校生の将来にとって切実な問題だと思う



高校生が社会課題・環境問題の解決のために行動しても何も変わらないと思う



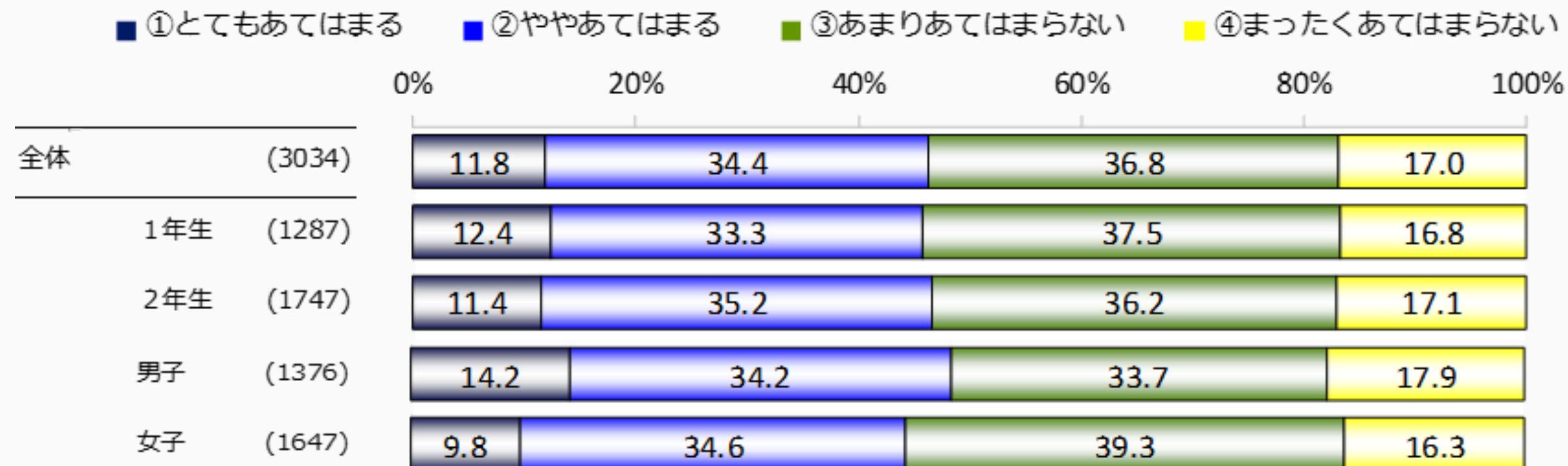
3. (参考) 高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第4回)結果概要

エシカル消費に関する考え方や傾向②

消費者の役割や消費行動が社会全体に与える影響については、なお十分に理解が進んでいない

- 「買い物は商品・企業に対する『お金の投票』だと思う」という回答も全体で過半数に満たず。

買い物は商品・企業に対する「お金の投票」だと思う



高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査（第4回）



調査結果報告書はホームページより閲覧・ダウンロードが可能です